

式 辞

本日ここに名古屋学院大学創立五十周年記念式典を挙行するに当たり、文部科学省高等教育局長 吉田大輔様、愛知県知事 大村秀章様、名古屋市長 河村たかし様、日本私立大学連盟副会長 楠見晴重様はじめ多くの皆様方には、公務ご多用にもかかわらず、ご臨席を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

また、日頃は本学に対し、多大なるご支援・ご指導をいただいておりますこと、併せて厚く御礼申し上げます。

さて、名古屋学院大学は一八八七年、明治二十年に米国のメソジスト・プロテスタント教会の宣教師、フレデリック・チャールズ・クライン博士が創立しました私学名古屋英和学校を前身として、大学としては一九六四年、昭和三十九年に名古屋市東区砂田橋の名古屋学院において、中学・高等学校・大学の一貫教育を目指し、経済学部一学部の単科大学としてスタートいたしました。そしてその四年後の一九六八年、昭和四十三年には瀬戸市品野台の地にキャンパスを移転いたしました。移転当初は言葉では言い尽くせないほどの財政的苦難に陥りましたが、中学・高等学校との法人分離を行うなどの対策を講じるとともに、父母会や関係者などのご支援によりその苦難を乗り越えることができました。その後、学部・大学院の充実、さらには二〇〇七年、平成十九年に名古屋市、瀬戸市はじめ地域の方々のご理解・ご協力を得て主な学部を名古屋市熱田区白鳥の地にキャンパスを移転するという、この地方の大学としては初めて都心にキャンパスを回帰する取り組みを行いました。現在では名古屋、瀬戸の二キャンパスのもと、経済学部、商学部、法学部、外国語学部、スポーツ健康学部及びリハビリテーション学部の六学部十学科、留学生別科、更には大学院として経済経営と外国語学の二研究科を擁し、約五、五〇〇名の学生が在籍する総合大学へと成長することができました。来年度は、さらに「現代社会学部」と「国際文化学部」を新設するとともに、スポーツ健康学部の中に幼稚園と小学校の教員を専門に養成する「こどもスポーツ教育学科」を開設することとしております。

本大学を卒業した方々も四二、〇〇〇名を超え、皆様方のご支援・ご指導を得て、現在では愛知県をはじめ全国各地で活躍をしてみえます。

このように五十年を振り返ってみますと、順風な時ばかりでなく、特に開学当初の財政面での苦渋に充ちた経験を乗り越え、今日の大学の発展を享受する私どもとしましては、先人の努力と決断、そしてご父母や卒業生の皆様方の深いご理解とご協力、ご支援、そして多くの関係者の方々の本学に対する限りない愛があったからこそと心より感謝と敬意を表する次第であります。

さて、本学の建学の精神は「敬神愛人」であります。

「神を敬い、自分を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい」という教えのもと、キリスト教主義に基づいた人格教育を通じて、隣人愛あふれ、物事を主体的に考え、行動する国際教養人の育成を目指すことはもとより、「地域の中にある大学」を目指し、名古屋市、瀬戸市の皆様方のご支援、ご協力を得て、社会貢献活動及び地域と連携した教育プログラムの実践にも力を入れております。

しかし、昨今、大学を取り巻く状況は大変厳しいものがあります。

社会・経済のグローバル化がより一層進展し、様々な領域で複雑化、不確実性が高まる中、地域社会や産業界からは、大学に対し有為な人材の育成や学術研究の発展への要求が高まっています。

また、十八歳人口は、一九九二年の二〇五万人をピークに減少し、二〇二三年以降は一〇〇万人を割りこむと見込まれております。

このような状況の中、本学は次の五十年を飛躍の時とするため、時代の変化や社会の要請に応え、絶えず改革を進めることこそ肝要と認識し、教職員、一丸となって教育、研究、社会貢献活動に取り組んでまいります。

さらに、自分の周りの様々な方々との「共生」が一層重視される時代において、隣人愛の精神を持つ本学の存在意義を社会に示すとともに、建学の精神「敬神愛人」に基づき高い志と豊かな国際感覚を備えた有為な若者を育成し、社会に輩出する大学を一層推進してまいります。

ご列席いただきました皆様方におかれましては、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、式辞といたします。

二〇一四年十月二十五日

学校法人名古屋学院大学

理事長 稲垣隆司